

在京石鳥谷 町人会だより

在京石鳥谷町人会だより
 発行所 在京石鳥谷町人会
 埼玉県さいたま市桜
 区大久保領家 630-34
 電話 048-855-7577
 発行者 熊谷 福二
 編集 広報部 会
 責任者 飯塚 悦子

ごあいさつ

在京石鳥谷町人会
 会長 熊谷 福二



秋も深まり、ふる里石鳥谷は冬を迎える準備をしていることでしょうか。

会員の皆様にはお変わりなく過ごしのことと存じます。

今年の夏は、異常な猛暑に見舞われ大変な日々でございましたが、体調はいかがでしたでしょうか？

私はお陰さまにて元気に九月七日十日石鳥谷町に行つてまいりました。

協賛の皆様方にご挨拶回りを致し、その後石鳥谷まつりの見物に出かけました。大石市長のご挨拶で始まり、石鳥谷まつりパレードスタートです。八重畑小学校鼓隊パレードやら新堀小学校神楽その他沢山見て来ました。山車五台が賑やかに練り歩き、やはり郷土芸能は見るたびに

感激しました。
 在京石鳥谷町人会総会・親睦交流会は、お蔭さまで二十三回を迎えました。会員皆様の絶大なるご協力と故郷石鳥谷の皆様、そして花巻市当局（旧石鳥谷役場含め）の様々なご協力・ご指導頂きました賜物と感謝しております。

今後も活動を発展させたく思います。が現状は思うようにならず苦心致しております。若い会員の増員が儘ならず様々な活動にご協力頂ける人員が年々減少しています。なんとか歯止めを掛けるよう努力中です。ので会員の皆様方、今後共宜しくご協力の程お願いいたします。



“ありがとう石鳥谷、わが故郷、より

ふるさとの秋





今昔 下町散策

千葉県松戸市在住

山口 建

今年の下町散策は東京のご真ん中、東京駅を中心に廻りました。

四月二十四日(土)有志十一名が参加。春にしては寒い日が続いていましたが、当日は暖かな散策日和、東京駅八重洲北口を二時にスタートしました。



出発地・東京駅

コースは「大岡越前」や「遠山の金さん」でお馴染みの奉行所、北町奉行所に始まって終点は南町奉行所という粋なルートでした。しかし両奉行所とも今は昔、歴史の片鱗をビルの銘板と案内板でかろうじて知ることになります。

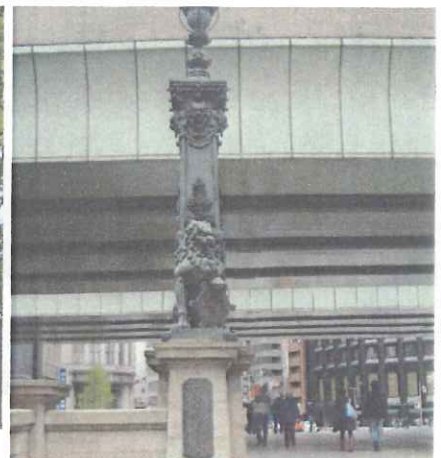
日本橋は隅田川と外濠とを結ぶ日本橋川に架かり、橋の中央には全国への道路元標があることで有名です。



東京市道路元標

昔の旅人がここを起点に往来していたのかと感慨もひとしおですが、橋は東京オリンピックの時に出来た高速道路に覆われ、近代化の狭間で景観が損なわれた感がありました。高速道路を地下にもっていく計画があるそうですが、できればそう

ありたいと望むところです。



高速道路の下になった日本橋



渋沢栄一像

日本銀行は新しいビルに役目を移し、今は記念館の趣です。日本の近代経済の基盤を築いた渋沢栄一像もひっそりと佇んでいるように見えます。

将門の首塚は、平将門をまつる神田明神からの流れか、意外と訪れる人が多いのが印象的でした。



大手町にある平将門の首塚

日本経済の中心地とも言える日本橋、大手町、丸の内、有楽町を巡る今回の下町散策でしたが、江戸から昭和へとその時代を象徴する建物、重要な人物にふれ、また関東大震災や第二次大戦をくぐりぬけながら、平成の今へと続いていることを思うと、歴史は今も動き続けていることを実感します。

最終目的地は有楽町にある馴染みの居酒屋です。みんなで飲んだビールの美味しかったこと、散歩の楽しみを満喫しました。



夫のフランクは自然豊かなこの石鳥谷での生活が大変気に入って昨年から住み始めました。私も定年



私達は現在、花巻市石鳥谷町、新堀の里山で、スローライフを楽しんでいます。



花巻市石鳥谷町在住
細川 久美子 (久榮)

ヤギを飼い(現在六匹)、畑を耕し、米作りをして本当に自然に生かされていると感じています。安くておいしい『産直めぐり』、特に温泉に出かける生活を満喫しています。フランクは今年初めて米作りをしました。今ようやく稲刈りを終えたところ



8月に生まれた子ヤギ

退職をして岩手の生活を楽しんでいます。とはいえ、特任教授として又、大学で教えることになり、新幹線で東京まで通っています。東京では朝から晩まで、時間に追われた生活。しかし岩手では緑あふれる自然の中で、ゆったりと時を過ごすことが出来大満足です。

岩手に戻って、岩手の良さを再確認、残りの人生を故郷石鳥谷でのんびり楽しく過ごしたいと考えています。

大迫・あんどんまつり (2010・8)



四季の豊かさ、春の木々の萌え出る緑の美しさ、夏は東京に比べて格段に涼しく過ごし易く、冷房なしで夜を過ごせる心地良さ、秋は祭りを楽しみ、冬は白鳥や鴨の飛来を楽しんでいます。

細川久榮さんは、在京石鳥谷町人会の歌「朋友」を作曲された方です。



優勝カップを手に

第十二回岩手県人連合会主催のゴルフ大会で、高橋弘美さんが見事個人優勝の栄冠を勝ちとられました。千葉県野田市の紫カントリークラブあやめコースで十月四日(月)に行われた。同大会は前日までの天気予報では雨風強しの最悪でしたが、当日は霧雨模様でしたが傘も要らず厚くなく寒くなく風もなしの最良のゴルフ日和となり、例年ですと二百人以上の参加者のところ、今年は雨天を嫌った方や、高齢化のため一五〇名程となりました。昨年当会は団体でブービー賞(ビリから二番目)の栄冠(?)でしたが、今年は優勝者が出たことは、まことにめでたいことです。(M・O)

高橋弘美さん
快挙!

コラム

ロスポーラーチョスの上川信行様からメールを頂きました。(八幡出身)

石鳥谷で狐を見ました



三月のお彼岸で帰省したおり狐を見ました。(雪が降りました。) 早朝ですが、新築中の石鳥谷中学校と新しくできた堤防の間で白鳥を撮影していたら、野良犬かな? 思ったのですが、よく見たら顔が三角形だし、尻尾が長いし、何かに驚いて垂直にジャンプしました。 あせってシャッターに収めました。よく見ると結構太っているの人間の間食べ残しとか食べているのかも知れません!

岩手県の地名は 何処から?

(地名の由来)

岩手県は明治五年に盛岡県から、県庁所在地であった郡名の『岩手』に由来する。

① 岩手は『岩手山』にちなんだ名称で、岩手山の名称は火山で溶岩流に岩が押し出した所の意味『岩(岩)出(いで)』が転じたと言われていました。

② 岩手には『羅刹鬼(らせつぎ)』と言う悪事を働く鬼が出没し人々を困らせていました。そこで人々は『三ツ石様』と呼ばれる神様にお願したところ、神様は鬼を捕らえ、二度と悪事をしない印として岩に手形を押させたことから『岩手』と呼ぶようになったと言われていました。

三ツ石様『三ツ石神社』は盛岡市那須川町二一 東頭寺(とうげん寺)の境内にあります。

元は巨大な一つ岩が三ツに割れそれが三ツ石様の由来。盛岡の別名(旧称)『不来方(こずかた)』も同

じ起源で『鬼が二度と来ないと』ろ』という意味から生まれた地名といわれています。

「さんさ踊り」

人々は「三ツ石様」のお蔭で鬼が二度と来なくなったことを喜び「さんささんさ」と踊ったことから『さんさ踊り』として今日まで受け継がれていると言われています。

また、さんさ踊りは「さしあげ踊り」と言いお供え物をさしあげて踊った事からも、三十三通りの踊りがあるからとも言われています。

現在、三ツの大岩はありますが、鬼の手形の判別は難しいようです。長年の雨、風と人々が撫で回したため摺り減ったため?。手形の部分は苔が生えないそうです。

(M・K)



年間の主な予定・催しもの

- ☆ 在京石鳥谷町人会総会・親睦交流会
- ☆ 下町散策
- ☆ 岩手県人の集い
- ☆ 石鳥谷まつり
- ☆ 花巻・石鳥谷観光物産展
(阿佐ヶ谷すずらん通り商店街)

お詫びと訂正

7号(22年4月1日発行)の3ページ『三度の感涙』4段6行目の「石鳥谷音頭を踊って終焉となった。」の終焉が間違っていました。正しくは終演です。お詫びして訂正いたします。

編集後記

会報についてのアドバイスやお気づきの点がありましたら、お知らせ下さい。投稿をお待ちしております。(何でも結構です)